Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：貿易統計（2015年１月）
～貿易赤字が大幅縮小～

発表日：2015年2月19日（木）

第一生命経済研究所　経済調査部
担当　副主任エコノミスト　　高橋 大輝
TEL：03－5221-4524

		貿易収支(億円)				輸出数量				輸入数量			
				輸出金額	輸入金額		アメリカ	EU	アジア		アメリカ	EU	アジア
		原数値	季調値	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
14	1月	▲ 27950	▲ 18703	9.5	25.1	▲ 0.2	6.3	5.5	▲ 2.0	8.0	15.3	9.2	10.9
	2月	▲ 8047	▲ 12098	9.8	9.0	5.4	▲ 1.0	8.2	5.0	▲ 0.5	16.0	8.6	▲ 2.9
	3月	▲ 14507	▲ 16583	1.8	18.2	▲ 2.5	1.5	▲ 0.3	▲ 4.9	11.6	13.3	12.8	11.3
	4月	▲ 8149	▲ 8814	5.1	3.4	2.0	▲ 1.5	4.8	▲ 1.3	▲ 1.3	6.2	0.7	1.1
	5月	▲ 9108	▲ 8759	▲ 2.7	▲ 3.5	▲ 3.4	▲ 1.9	6.4	▲ 4.9	▲ 4.0	1.0	▲ 0.7	▲ 2.3
	6月	▲ 8285	▲ 10514	▲ 1.9	8.5	▲ 1.6	▲ 1.8	4.5	▲ 5.4	7.2	6.4	7.9	8.2
	7月	▲ 9649	▲ 9957	3.9	2.4	1.0	▲ 1.0	3.7	0.7	▲ 0.3	▲ 0.7	▲ 2.8	▲ 2.7
	8月	▲ 9527	▲ 8647	▲ 1.3	▲ 1.4	▲ 2.9	▲ 6.2	1.0	▲ 3.4	▲ 4.6	▲ 2.3	▲ 3.3	▲ 5.0
	9月	▲ 9641	▲ 10338	6.9	6.3	2.8	▲ 1.1	▲ 4.9	4.9	3.0	0.1	4.0	3.1
	10月	▲ 7407	▲ 8977	9.6	3.1	4.8	▲ 0.4	3.2	4.5	▲ 1.7	7.9	3.7	▲ 3.7
	11月	▲ 8952	▲ 7753	4.9	▲ 1.6	▲ 1.7	▲ 3.7	▲ 4.4	▲ 1.3	▲ 7.0	▲ 9.7	▲ 0.6	▲ 6.5
	12月	▲ 6652	▲ 6207	12.8	1.9	3.9	8.4	3.6	0.4	▲ 1.8	8.8	▲ 6.6	▲ 4.1
15	1月	▲ 11775	▲ 4061	17.0	▲ 9.0	11.2	3.0	6.4	15.4	▲ 6.3	▲ 14.7	▲ 7.7	▲ 10.0

（出所）財務省「貿易統計」

○輸出好調＋輸入減少＝貿易赤字大幅縮小

１月の貿易統計が財務省より発表され、貿易収支は11,775億円の赤字（コンセンサス：▲16,835億円、レンジ：▲20,494～▲13,354億円）となった。輸出金額が前年比＋17.0％（コンセンサス：＋13.5％、レンジ：＋4.8％～＋17.0％）と高い伸びになる中、輸入金額は▲9.0％（コンセンサス：▲4.8％、レンジ：▲9.6％～▲2.0％）と減少し、貿易赤字額は前年（▲27,950億円）から大幅縮小した。

輸出金額は為替レートが円安傾向（前年比＋14.1％）で推移していることに加えて、輸出数量も高い伸びとなり好調な結果となった。一方、輸入金額は、輸出と同様に円安による押し上げがあったものの、原油価格の下落が輸入金額の下押しとなっている。原粗油と石油製品の前年比寄与度は併せて▲8.2％pt と１月分輸入の減少のほとんどを説明でき、原油価格下落による下押し圧力の強さが窺える。また、数量も４ヶ月連続の前年比マイナスと減少が続いている。

季節調整値では、輸出金額が前月比＋1.8％と８ヶ月連続で増加、輸入金額は同▲1.4％と減少した。輸入金額は10月以降減少傾向で推移しており、輸出金額と輸入金額は対照的な動きが続いている。季節調整値でみた貿易赤字額は▲4,061億円と、赤字幅は2012年２月以来の水準まで縮小した。

○実質輸出は好調

為替などの物価変動の影響を除いた実質輸出（実質化、季節調整は第一生命経済研究所試算）は、前月比＋4.5％（12月：同＋2.2％）と高い伸びになった。実質輸出は９月以降力強い推移が続いている。１月の結果については、アジアの春節によって実勢よりも高めの数値が出ている可能性がある（昨年の春節は１月31日、今年は２月19日）。そのため、２月分の結果と併せてみる必要があるが、米国向けも力強い推移が続いているなど、実質輸出が好調であることには変化はないとみている。

実質輸出を地域別に見ると、米国向けが前月比＋5.4％、ＥＵ向けが同＋3.2％、アジア向けが同＋9.4％と各地域向けとも高い伸びとなった。米国向けは、一般機械、電気機器、輸送用機器がそれぞれ増加するなど

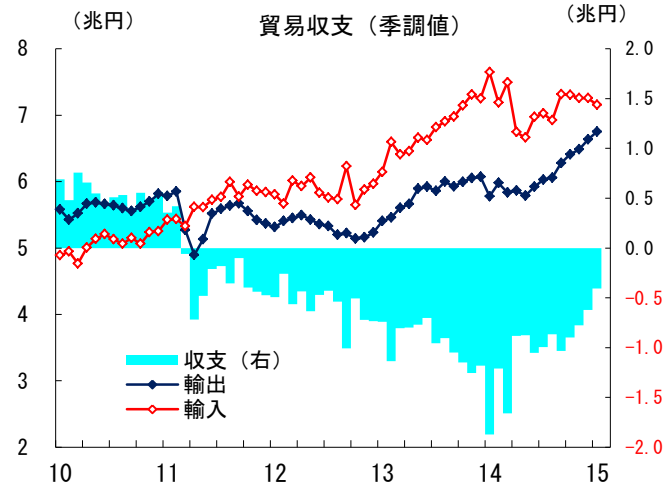
本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

内容も良好だ。これで６ヶ月連続の増加であり、実質輸出を安定的に押し上げている。ＥＵ向けは低迷が続いていたものの、輸送用機器の大幅増加が実質輸出を牽引し、２ヶ月連続のプラスとなった。アジア向けは、中国向け、ＮＩＥｓ向け、ＡＳＥＡＮ向けがそれぞれ増加、財別にみても幅広い項目で増加となった。ただし、前述したように春節によって上振れた推移となっている可能性があり、２月の結果と併せてみる必要がある。

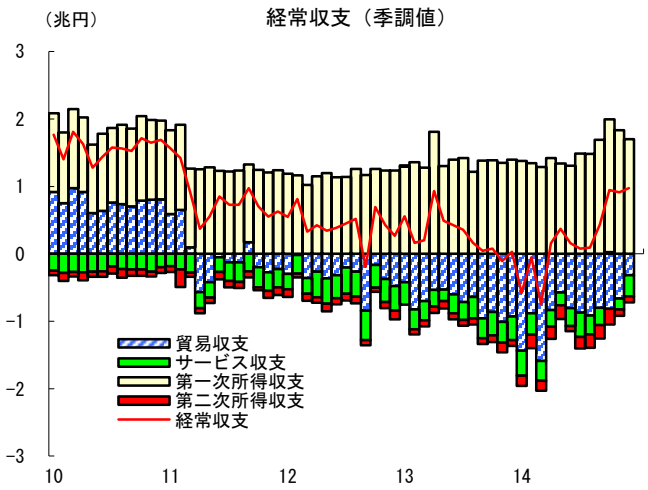
○先行きの実質輸出は回復が続く見込み

以上のように、１月貿易統計の実質輸出は、春節の押し上げを割り引いてみる必要があるものの、増加基調を辿っていることが確認された。先行きについては、基本的には海外経済の回復を背景に緩やかな増加基調で推移していくものと見ている。堅調な米国経済がけん引役となることで、世界経済は緩やかに持ち直していくだろう。アジアについても、資源輸入国が多いことから総じてみれば原油安による恩恵が大きく、堅調な推移が見込まれる。欧州経済は低調な推移が続いていたものの、量的緩和を背景としたユーロ安・金利安が景気の追い風となることで回復基調を辿るだろう。

なお、１月の経常収支（季節調整値）は、１兆円を越える黒字を予想している。また、国際収支統計の貿易収支は基準の違いなどにより貿易統計における貿易収支よりも赤字額は小さく出る。過去の乖離幅からみると、１月の国際収支統計における貿易収支は黒字が視野に入ってくる。

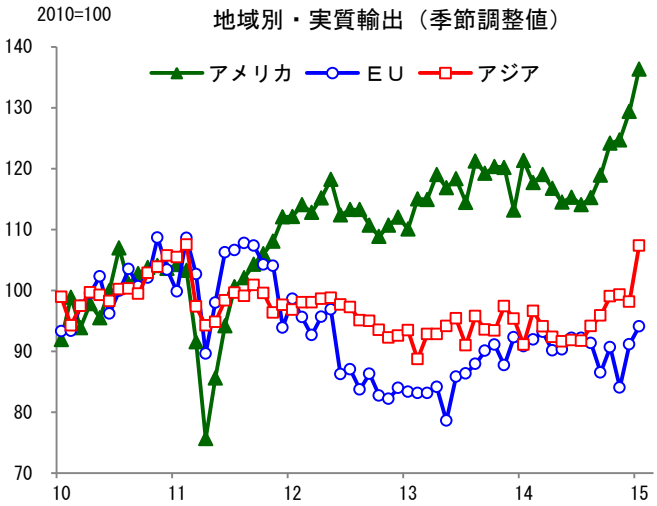


（出所）財務省「貿易統計」



（出所）財務省「国際収支統計」

（出所）財務省「貿易統計」（注）横線は四半期平均値
※実質化および季節調整は第一生命経済研究所



（出所）財務省「貿易統計」
※実質化および季節調整は第一生命経済研究所

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。